



# 宮崎県の方言を未来に残そう！

班員 長友由奈 竹崎真帆 指導者 永吉彩芽先生 森田康平先生  
霜見琉美奈 興梶祥 小野雅史様

## 研究の動機

- ・宮崎県の方言に世代間のギャップを感じ、そのギャップについて調べた いたから。
- ・宮崎県の方言は地域共同体にとって 重要な要素だから。

## 研究の目的

- ・無くなりつつある宮崎県の方言を残 していくため。
- ・宮崎県の使われなくなった方言はな ぜ使われなくなったのか知るため。

## 研究で明らかにしたいこと

- ・なぜ宮崎県の方言は使われなくなっ ていったのか。
- ・どのくらいの割合の人が方言を使っ ているのか。

## 先行研究

マスメディアやインターネットの発達により、子供たちが共通語に接する機会が多くなった代わりに、方言に接する機会が少なくなった。  
若者の人口が地方から都市部へ就職や進学のために減少している。

## 仮説

- ・若者の**スマホ依存**により共通語を見 聞きすることが増えて、方言を使う 機会が減っているのではないかな。
- ・そもそも**知らない方言**が増えている のではないかな。
- ・知っていても**共通語を使う方が良い** と感じているのではないかな。

## 参考文献 閲覧日 6月6日(金)

[母国語がなくなる？世界で言語が減少している理由 - ロスゼロ](#)  
[ロスゼロ](#)  
[https://losszero.jp/blogs/column/col\\_174](https://losszero.jp/blogs/column/col_174)



## 研究方法

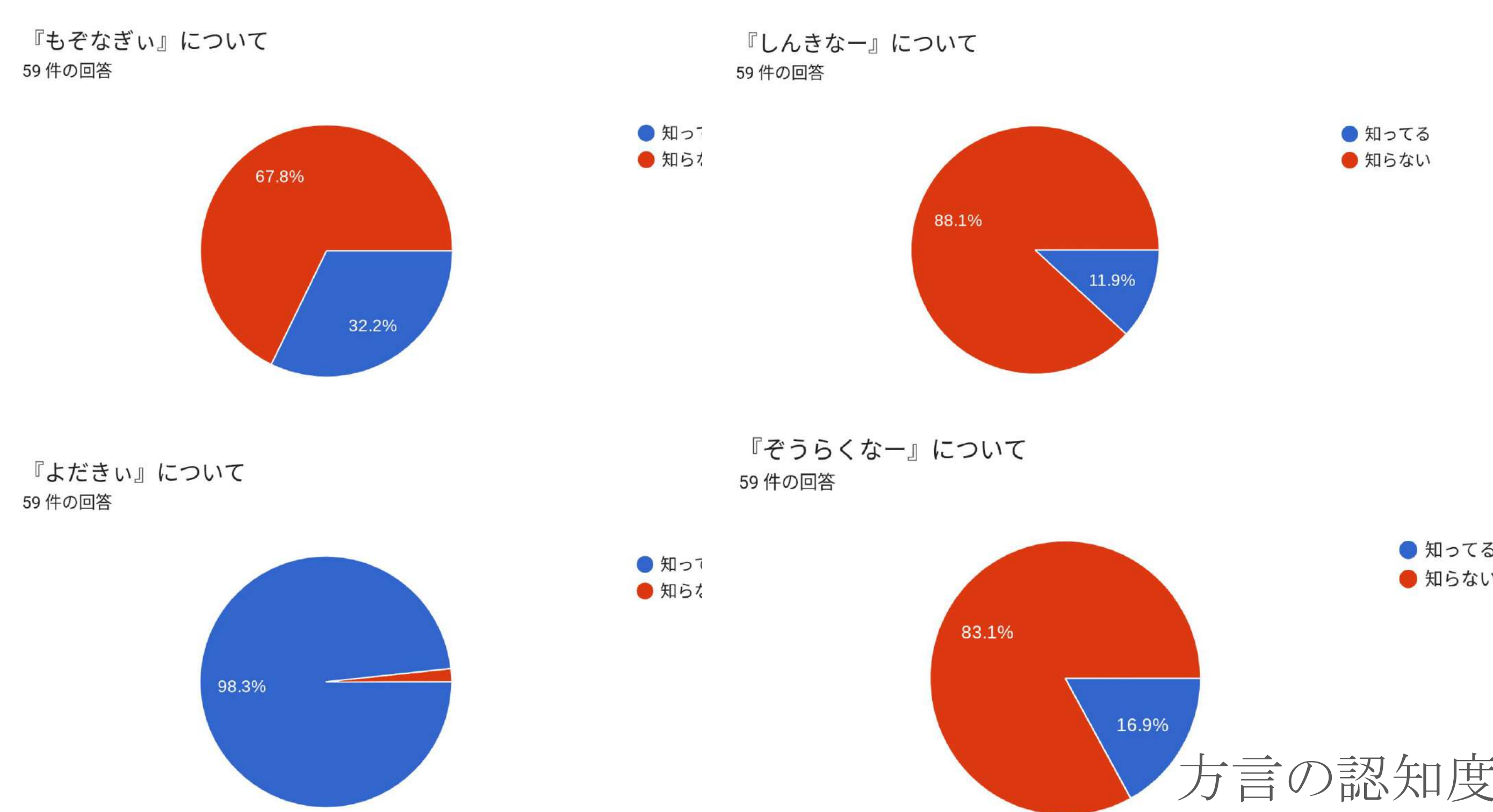
- ①班メンバーの祖父母や親に知っている宮崎県の方言を聞いて、その方言から 4つを無作為に選ぶ。
- ②4つの方言をアンケートで調査する。
- ③結果から方言が使われなくなっている 原因を考察する。
- ④原因から残す方法を考える。

## 研究結果 延高1・2年のうち59名回答

もぞなぎい（可哀想）  
認知度 32.2% 使用度 21.1%  
しんきな一（悔しい、腹が立つ）  
認知度 11.9% 使用度 0%  
よだきい（面倒くさい）  
認知度 98.3% 使用度 60.3%  
ぞうらくな一（楽だ、簡単だ）  
認知度 16.9% 使用度 10%

### ★知っているのに使わない理由

- ・相手に伝わらない
- ・周りが使っていない、恥ずかしい
- ・お年寄りのイメージがある など



## 考察と今後

方言に接する機会が少ないのではないかな。  
今後、方言に接する機会を増やすために老人ホームなどで高齢の方との交流の場を設けると良いのではないかな。



## 謝辞

私たちの研究に協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。